

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成20年6月19日(2008.6.19)

【公表番号】特表2004-528803(P2004-528803A)

【公表日】平成16年9月24日(2004.9.24)

【年通号数】公開・登録公報2004-037

【出願番号】特願2001-584514(P2001-584514)

【国際特許分類】

C 12 N	15/09	(2006.01)
A 61 K	39/205	(2006.01)
A 61 K	39/395	(2006.01)
A 61 P	25/00	(2006.01)
A 61 P	31/12	(2006.01)
C 07 K	16/10	(2006.01)
C 07 K	16/46	(2006.01)
C 12 N	1/15	(2006.01)
C 12 N	1/19	(2006.01)
C 12 N	1/21	(2006.01)
C 12 N	5/10	(2006.01)
C 12 P	21/08	(2006.01)

【F I】

C 12 N	15/00	Z N A A
A 61 K	39/205	
A 61 K	39/395	S
A 61 P	25/00	1 0 1
A 61 P	31/12	1 7 1
C 07 K	16/10	
C 07 K	16/46	
C 12 N	1/15	
C 12 N	1/19	
C 12 N	1/21	
C 12 N	5/00	A
C 12 P	21/08	

【手続補正書】

【提出日】平成20年4月28日(2008.4.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 抗体重鎖及び抗体軽鎖から成る抗体をコードする分離された核酸であって、配列番号3のアミノ酸配列を有する抗体重鎖をコードする第1の核酸セグメントと、配列番号4のアミノ酸配列を有する抗体軽鎖をコードする第2の核酸セグメントと、を有する分離された核酸。

【請求項2】 前記第1の核酸セグメントは配列番号1のヌクレオチド配列を有し、前記第2の核酸セグメントは配列番号2のヌクレオチド配列を有する請求項1に記載の分離された核酸。

【請求項 3】 請求項 1 又は 2 に記載の核酸を有する発現ベクター。

【請求項 4】 請求項 3 に記載の発現ベクターで形質転換され、前記発現ベクターによってコードされたポリペプチドを発現するようになっている宿主細胞。

【請求項 5】 狂犬病ウイルス中和抗体の製造方法であって、請求項 4 に記載の宿主細胞を培養することを含む製造方法。

【請求項 6】 配列番号 3 のアミノ酸配列を有する重鎖ポリペプチドと、配列番号 4 のアミノ酸配列を有する軽鎖ポリペプチドと、を有する抗体。

【請求項 7】 (a) (i) 配列番号 3 のアミノ酸配列を有する抗体重鎖ポリペプチドの可変領域をコードする第 1 の DNA 配列と、(ii) ヒト重鎖定常領域をコードする第 2 の DNA 配列と、を有する融合遺伝子によってコードされる免疫グロブリン重鎖と、  
(b) (i) 配列番号 4 のアミノ酸配列を有する抗体軽鎖ポリペプチドの可変領域をコードする第 1 の DNA 配列と、(ii) ヒト軽鎖定常領域をコードする第 2 の DNA 配列と、を有する融合遺伝子によってコードされる免疫グロブリン軽鎖と、  
を有する抗体。

【請求項 8】 配列番号 3 のアミノ酸配列を有する抗体重鎖ポリペプチドのフラグメントと、配列番号 4 のアミノ酸配列を有する抗体軽鎖ポリペプチドのフラグメントと、を有し、狂犬病ウイルス中和活性を有する抗体フラグメント。

【請求項 9】 F v フラグメント、F ab フラグメント及び F (ab')<sub>n</sub> フラグメントから成る群から選択される請求項 8 に記載の抗体フラグメント。

【請求項 10】 狂犬病ウイルスに曝露した個体を処置するための、請求項 6 若しくは 7 に記載の抗体又は請求項 8 若しくは 9 に記載の抗体フラグメント。